

虎ノ門ヒルズ「グッドデザイン賞」を受賞

～ 立体道路制度の活用による土木・インフラを巻き込んだ開発が評価～

森ビル株式会社が管理運営する「虎ノ門ヒルズ」(東京都・港区、2014年5月竣工)が、この度、日本で唯一の総合的なデザイン推奨制度グッドデザイン賞(主催:公益財団法人日本デザイン振興会)の「2015年度グッドデザイン賞(公共用の建築・施設部門)」を受賞しました。

今回の受賞は、立体道路制度の活用による土木やインフラを巻き込んだ都市開発プロジェクトである点や、オフィス、住宅、ホテル、国際会議施設、商業施設などの複合用途の開発である点などが評価されたものです。

評価ポイント(評価者コメント)

21世紀に入ってから東京では巨大開発が続いているが、これは建築だけでなく、土木・インフラを巻き込んだ実験的なプロジェクトである。すなわち、立体道路制度を活用して、環状二号線の道路の真上に超高層ビルを建設した。さらに傾斜する道路を反映しながら、屋内外の空間(広場やアトリウムなど)が緩やかなスロープとなり、街路の感覚を導入している。多機能のプログラム、複雑な構造設計からパブリックアートの設置まで、多面的に目配せをした都市開発である。



アトリウム



パブリックアート
ジャウメ・ブレンサ(ルーツ)



ステップガーデン



グッドデザイン賞は、デザインの効果・効用、そのデザインが「暮らしを、社会を、豊かにしうるのか」という視点から評価するもので、工業製品のほかにも、街や建築物、サービスやソフトウェア、コミュニケーション等、有形無形を問わず、人によって生み出されるあらゆるものや活動を対象としています。



GOOD DESIGN
AWARD 2015

【本件に関するお問合せ先】

森ビル株式会社 広報室 松本、渡邊

TEL : 03-6406-6606 FAX : 03-6406-9306 E-mail : koho@mori.co.jp

《参考資料》

立体道路制度の活用

都内で初めて超高層ビルの中を道路が貫通したプロジェクト

虎ノ門ヒルズは環状第二号線新橋・虎ノ門地区第二種市街地再開発事業 街区(虎ノ門街区)として整備され、「立体道路制度」を活用して、環状第2号線と一体的に開発された超高層複合タワーです。再開発にあたり、現地で引き続き生活したいという権利者の要望に応えるため、環状第2号線の本線部を地下化し、道路の上下空間を建築可能区域として再開発ビルを建設し、敷地の有効活用を図っています。



立体道路制度とは

1989年に創設された、土地利用の合理化を図るための取り組みの一種。道路区域を立体的に定めて、道路施設として必要な空間以外を建設物などに利用することで、道路の上下に建築物の建設ができるようにした制度です。立体道路制度の創設により、従来道路区域の土地は道路事業者が全面買収していましたが、従前地権者は、同じ場所で継続して居住・営業が可能となりました。また、道路として利用する部分のみ権利を取得するため、用地取得費が軽減され、道路単独の整備を行う場合よりも、地域の合意形成が得やすくなりました。

複合用途の開発

地上52階建て、高さ247mの超高層複合タワー「虎ノ門ヒルズ」は、東京都が外国企業誘致を推進する「アジアヘッドクォーター特区」に位置。

最高スペックを備えた30フロアのオフィス、眺望抜群でホテルサービスも利用できるハイクラス住宅、ハイアットが運営し、日本初進出となるライフスタイルホテル「アンダーズ 東京」、国際水準のカンファレンス施設、多様な都市活動を最大限サポートする24店舗の商業施設を擁すほか、地上には広大な芝生広場など約6,000㎡のオープンスペースが広がり、四季を通して楽しめる自然が随所に配置されています。

